

ネイティブパチルス・ポリミクサ・ディペース I

Cat. No. NATE-0191

Lot. No. (See product label)

はじめに

説明

Dispase Iは、皮膚の表皮を真皮から迅速かつ効果的に、優しく中性のプロテアーゼであり、無傷の上皮シートを基質から分離することもできます。この酵素は、基底膜ゾーン領域を切断しながら上皮細胞の生存能力を保持します。また、懸濁培養における塊の形成を防ぐためにも使用できます。このプロテアーゼはフィブロネクチンとタイプIVコラーゲンを切断しますが、ラミニン、タイプVコラーゲン、血清アルブミン、またはトランスフェリンは切断しません。非極性アミノ酸残基のN末端ペプチド結合を加水分解します。酸性化した細胞間タンパク質や、疎水性アミノ酸残基が露出したタンパク質を優先的に攻撃します。Ca²⁺、Mg²⁺、Mn²⁺、Fe²⁺、Fe³⁺、およびAl³⁺が酵素を活性化します。EDTA、EGTA、Hg²⁺および他の重金属は酵素活性を阻害します。この酵素は、精製された酵素1g-molあたり1g-原子の亜鉛を含んでいます。この亜鉛成分がEDTAやEGTAなどのキレート剤によって除去されると、不活性なアポ酵素が得られます。この酵素は血清によって阻害されません。

用途

Dispase Iは、治癒過程の初期段階における羊膜の創傷サイズへの影響を評価する研究で使用されました。Dispase Iはまた、プロテアーゼアッセイのためのジチロシンベースの基質を調製する研究でも使用されました。Dispase Iは、肺の消化およびフローステインの処理、ならびにマウスにおけるCD4細胞の分離にも使用されています。この酵素は、切除された創傷とその周囲の少量の皮膚を消化してGFP+（青色蛍光タンパク質）細胞を調製するためにも使用されました。この研究は、骨由来の間葉系幹細胞の分化と血管新生が創傷治癒に与える影響を調べました。また、マウスから真皮線維芽細胞を分離する際に表皮を除去するためにも使用されました。

別名

ディスペアーゼ I; ディスペアーゼ; 42613-33-2; パチルス・ポリミクサ由来のプロテアーゼ

製品情報

由来

パチルス・ポリミクサ

形態

カルシウムアセテートを含む凍結乾燥粉末

CAS登録番号

42613-33-2

活性

> 10 ユニット/mg 固体

単位定義

1ユニットは、pH 7.5、37°Cで、カゼインを加水分解して、1分あたり1.0 μmole (181 μg) のチロシンに相当する色を生成します (Folin-Ciocalteu試験による色)。特に指示がない限り。

保管・発送情報

保存方法

2-8°C